

ランピースキン病の国内侵入を警戒

ランピースキン病とは

届出伝染病 WOAHA（世界動物保健機関）通報対象疾病

病原体：ポックスウイルス科

対象：牛・水牛（人へは感染しません）

症状：発熱、泌乳量の減少、特徴的な皮膚病変※

※先ず、①皮膚が硬く、わずかに隆起してきます。

続いて②直径1～8cmの結節が形成されます。

次いで③逆円錐状の穴（皮膚の壊死巣）が生じます。

死亡率：1～5%（ワクチンを接種していない場合）

伝播：蚊、ハエ、ダニなどによる媒介、汚染された飼料、水、飼養管理器具などによる機械的伝播

予防 ワクチン接種※、衛生害虫の駆除

※農林水産省はランピースキン病ワクチンの備蓄作業を開始しました。

韓国で昨年5年10月23日に初発確認、1か月後の11月28日までに済州島を除く全道に発生が拡大、107農場6,691頭の肉用牛、乳用牛農場で発生しました。その間、11月10日には韓国国内の全ての牛を対象にワクチン接種を完了しています。

国内侵入リスクが高まっていることから、疑わしい牛を発見した場合には速やかに家畜保健衛生所へ通報してください。



②皮膚の結節



③皮膚の壊死巣